

15 ミニセルリーの施肥、かん水法

(農試県北分場)

夏秋どりミニセルリーとしての「トップセラー」を栽培する場合、熟畑であれば基肥成分は、コーネル619の場合の半量程度に減肥可能である。かん水効果の高い作物にあっても、生育段階、環境条件によって、かん水する。

(1) 背景とねらい

セルリーは食生活の多様化により需要が増加してきており、今後も消費の伸びが見込まれている。

県内のセルリー作付面積は現在のところ約4ha程度であるが、夏季冷涼な気候を好むところから気象条件的には本県は適地であり、またかんがい効果の高い作物とされていることから、今後畑地かんがい施設の普及につれて作付面積は拡大することが予想される。

以上の背景から、県北分場では昭和55年度より畑地かんがい関連試験の一部に、近年ミニセルリーとして人気の高い、トップセラーを供試して検討を加えてきたがち施肥、かん水法についてこれまでに得られた成果を報告し、指導上の参考に供したい。

(2) 技術内容

1) 施肥について

夏秋どりミニセルリーとしてのトップセラーを栽培する場合、普通の畑地であれば、基肥成分はコーネル619の場合の半量程度に減肥できる。追肥はコーネル619の場合に準ずる。

2) かん水について

必要に応じて以下の基準によりおこなう。

- 定植の1～2日前に土壤の乾燥状況に応じて、10～20mmかん水する。
- 苗が活着するまでは、降雨がないようであれば2～3日毎に5～7mmかん水する。
- 活着後は、最初の追肥までかん水しない。
- 追肥直後に5～10mmかん水し、肥効の促進を図る。
- 以後収穫がはじまるまで、黒ボク土では5日間断で20mm程度もしくはPF 2.4～2.5をかん水開始点としてPE 1.8になるまでかん水する。保水容量の小さい砂質土壤などでは3日間断で10mm、あるいはPE 2.4～2.4をかん水開始点としてかん水する。

(3) 指導上の留意点

1) 現在、コーネル619の施肥量は

N : 50+20、 P_2O_5 : 50、 K_2O : 50+20Kg

炭カル : 150 Kg、ようりん : 100 Kg、堆厩肥 5 t / 10 a が標準(野菜・花き栽培技術必携・岩手県他・昭55)となっているが、トップセラーはコーネル619より吸肥力が強いとされており、減肥の可能性は示唆されていた。トップセラーの三要素吸収量は、当分場の試算では、

N=15~25、 P_2O_5 =9~11、 K_2O =70~90Kg/10aに達すると推定されるが、施肥量そのものが多いため、加里などはぜいたく吸収的な面もあると考えられる。基肥成分は20-20-20程度でも初期生育に支障はないが、継続的な肥効が必要なため、追肥の時期を逸さないよう注意をする。また、炭カルやようりん、堆肥については現行に準ずる。

なお、ここでいう普通の畑地とは、普通畑作物が、通常の栽培管理で、標準的収量を得られる熟畑を意味する。

緩効性肥料の利用により追肥の手間を省略できると考えられるが、なお検討を要する。

具体的施肥の1例 (Kg/10a)

基 肥			追 肥	
N	P_2O_5	K_2O	N	K_2O
24	20	24	9	9
炭カル (PH 6.5 矯正量)			× 3回	
ようりん 100 (有効りん酸20mg以上の圃場では不要)				
堆肥 5,000				

2) 活着期までのかん水管理の詳細については、昭和56年度指導上の参考事項「畑地かんがいに 関する技術(1)は種・定植から生育初期におけるかん水法」を参照されたい。

活着以後は、かん水せずに根域の拡大を図るべきで、絶えずかん水すると根の分布が地表付近に偏在しがちになるので注意を要する。定植後20~25日頃に1回目の追肥をおこない、この時点から必要に応じて追肥毎にかん水するなど、肥効の継続を念頭においたかん水管理をおこなう必要がある。なおPF値は深さ10cmのものである。

かん水施設がない場合には、乾燥し過ぎない圃場を選ぶとともに、敷わらなどで土壌水分の保持を図るとよいが、追肥の肥効が不安定になりやすいので注意を要する。

なお、敷わらは雑草抑制や泥のはね上がり防止も期待できるので、かん水施設のある圃場でも有用である。

(4) 当該事項にかかる試験研究課題名

1) 寒冷地傾斜畑におけるかんがい栽培技術の確立

1. かんがい方式の確立 (3) かん水基準の策定

2) 同

2. かんがい栽培による作付体系策定 (1) 作付体系組立

(5) 参考文献

- 1) 農林水産技術会議事務局：(1972)畑地かんがい(研究成果56)
- 2) 鎌田ほか：(1979)肥料の施し方便覧 183 ~ 186 農文協
- 3) 岩手県農業改良普及会：(1981)いわての野菜百科 178 ~ 179
- 4) 農耕と園芸編集部：(1979)レタス・セルリー 140 ~ 259 誠文堂新光社
- 5) 前田：(1975)野菜の栄養診断と施肥 213 ~ 218 農文協
- 6) 岩間：(1980)野菜の上手なつくり方 180 ~ 193 農文協
- 7) 岩手県ほか：(1980)野菜・花き栽培技術必携
- 8) 岩手農試県北分場：(1982)昭和56年度試験成績概要